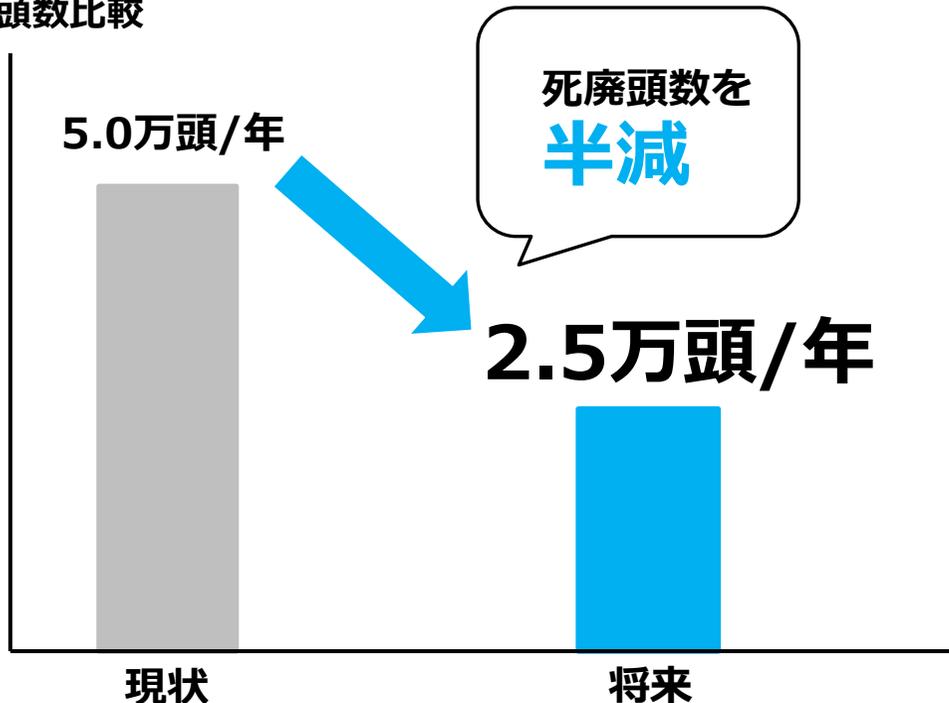


AIで家畜の病気を早期発見

- AIを活用して、呼吸器病や消化器病の兆候を早期発見し、家畜の死廃頭数を半減。
- 家畜の生体情報（体温、消化器機能、行動等）を自動収集・解析し、初期の体調変化を畜産農家・獣医師に通知するシステムを開発。

〈AIの活用で家畜の死廃頭数を半減〉

牛の呼吸器病等による
死廃頭数比較



ポイント

- ・ AIを活用し、家畜の病気を早期発見
- ・ 畜産農家・獣医師に通知、早期対応で死廃頭数半減

(イメージ)



A I で家畜の病気を早期発見

〈打破すべき課題〉

- 発見の遅れによる病気のまん延・重症化



〈研究目標〉

- 早期発見・早期対応で**死廃頭数を半減、経済損失を低減**

〈研究体制〉

- 共同研究機関
 - ・ 農研機構動物衛生研究部門
 - ・ 産総研
 - ・ (株)ファームノート
 - ・ 共立製薬 (株)
 - ・ 広島市立大学 等

〈開発のポイント〉

① 家畜の生体情報を自動収集する技術

- ・ 牛の呼吸器病、消化器病及び周産期疾病の兆候を検出するため、**体表温、ルーメン状態、活動量等のセンシング技術**を開発
- ・ 豚の呼吸器病の兆候を検出するため、**呼吸音等のセンシング技術**を開発

② A I により病気の兆候を早期発見・通知する技術

- ・ A I により家畜の生体情報を複合的に解析して**病気の兆候を早期発見**し、獣医師等へ通知して**早期対応を可能にする技術**を開発
- ・ **家畜の死廃頭数の半減**により、**200億円/年以上の経済効果**